

教育制度の民族化を

大学立法に対する民族的批判

日本学生同盟中央執行委員会

戦後教育は敗戦によるニヒリズムをアメリカニズムで克服しようとする要請をともなって出現した。アメリカニズムの本質からそのプログラマティックな思考は六・三・三・四制を貰き小中高斯期に於て、我々を分配した教育は受験の重荷を背負わせ、断片的知識獲得への強制と誘導へのメカニズムであった。しかし大学期を迎える、スタイルックな努力から解放された学生を待ち受けたもののは高校の延長としての語学・教養課目であり、かかる重圧よりの解放・欲求表明への衝動は、サークル活動への傾斜を生み单纯な國式イデオロギーへの汚染を生んだ。

（略）

（略）